

# 希 望

3年  
学年だより

No.13

令和2年11月 2日  
かほく市立河北台中学校  
校 長 荒山 浩  
学年主任 上谷 由喜

## 企業から学ぶSDGs(会宝産業～宮川裕基さん～)

これまで、「総合的な学習の時間」に持続可能な開発のためのグローバルかつ多角的な視点を持ち、進んで実社会に参画しようとする態度を育むことを目的に、SDGsをテーマにした探究活動に取り組んできました。そうした学びが将来の自分、日本、世界にどのようにつながっていくのかを知るために、2つの企業から講師を招聘し、「働くということ」「働きがいとは何か」も含めて講演していただきました。

会宝産業（かいほうさんぎょう）は、使用済自動車の引取・解体・破砕前処理などの自動車リサイクルと、中古車・中古自動車部品の輸出版売を事業としている会社で、本社は石川県金沢市にあります。

### 1組 山口福生

これからは、ものづくりの先にあるものを考えようと思いました。ものをつくる動脈産業の次の段階にある静脈産業に注目したいと思います。循環型社会を目指すために、リサイクルをするなど、自分で行動していきたいです。



### 1組 中村千那

これからは、身のまわりで世界とつながっていることを自分で想像していくことを大切にしていきたいなと思いました。そして、私たちでもできることをしていきたいなと思いました。

### 2組 新蔵ことあ

自分達が普段何気なく乗っている車などが世界を汚していると改めて知ることができたし、これから自分の行動を見直していきたいと思いました。



### 2組 西田稟

自動車の部品一つ一つにもいろいろな物が使われていて、それを専門に扱う会社でも細かい所までの分別はできないと分かりびっくりしました。使った後のことを知ったり、理解したりすることがSDGs達成の第一歩だと分かりました。

### 3組 太田菜々子

リサイクルをすることは、すごく大切なことだと分かりました。リサイクルをしないと動物たちに悪い影響を与えてしまうと分かりました。そんなことにならないように、リサイクルをしたいと思います。



### 3組 大久保瑠夏

日本の技術を国内だけでなく、世界に広めていっているのがいいことだなと思いました。



# 企業から学ぶSDGs(明和工業～金原竜生さん～)

明和工業は金沢市に拠点を置く、研究開発型のニッチトップ中小企業です。有機ごみを農業用やエネルギー用の炭にする「バイオマス炭化装置」や、農業用の集塵装置や排水処理装置等を中心とした環境プラントの設計・製造を行い、持続可能な世界の実現に貢献しています。講師の金原さんは、特定非営利活動法人World Theater Project（途上国の子どもたちへの移動映画館プロジェクト）にも携わっています。



## 3組 櫻吉凜生

他の人のために自分の時間を使えるのがすごいと思いました。働きがいがあるというのはその仕事を楽しめたり、その仕事の意義が感じられるということだという考えに共感しました。ボランティアも人によっては働きがいのある仕事なんだと思いました。

## 3組 新田雪乃

働くことについての、人生のテーマとして、自分がどれだけ成長しているかを考える、そして、人生のミッションとして世界と地域のために自分ができることをする、というのがとても勉強になりました。



## 2組 北村孔輝

石川県でもSDGsの取り組みを行っているところがあって驚きました。自分たち中学生にもネットを通してSDGsに関われるので、これからは参加してみたいです。

## 2組 小路雄大

SDGsを達成するにはまず環境をよりよくするしかない我知道了。自分の就職先を決めるときは、お金を最優先にするのではなく、楽しいということややりがいを最優先で職場を決めたいと思いました。

## 2組 岡田來閃

金原さんの「身近な人を大切に」「地球と地域のために自分ができることをする」という言葉に共感しました。「普段の生活への関心が低い」というのが確かに自分もそうだなと思いました。



## 1組 竹谷咲姫

SDGsにおいて、土台となる環境が合って、その上に社会、経済が成り立っていることを知り、環境を守ることは私たちが生活している社会や社会を運営する経済につながっていると分かりました。そして、明和工業では使わない物を別のものに生かすなどの工夫をし、循環型のサイクルを行うことで環境を守っていると聞き、私も「知ること」や「今までとは違うことをすること」を心がけて少しでもSDGsに貢献したいと思いました。



# <新聞に掲載されました>

私は総合的な学習の時間  
にSDGsに関する「地球  
温暖化とリサイクル」につ  
いて調べました。学んだこ  
とは二つあります。

一つ目は、  
地球温暖化は  
気温が上昇す  
るだけではな  
く水不足や農  
業への打撃、  
生態系に害を及ぼすとい  
うことです。二つ目はリサイ  
クルはごみの減量化につな  
がる半面、たぐさんのコス  
トを必要とすることです。  
型社会を目指しましょう。

みなさんには地球温暖化  
に危機感を持って、ごみの  
排出を抑制しつつ、コスト  
のかからない取り組みをし  
てほしいと思います。

私は、レジ  
袋を毎回買っ  
ている先生が  
いるというの  
を耳にし、そ  
の先生にマイ  
バッグをプレゼントしまし  
た。ちょっとした行為でも  
みんなが行えば結果は変わ  
ってきます。みんなが循環  
型社会を目指しましょう。

**循環型社会を  
みんなが目指す**

**山元萌々夏 14歳**  
(かほく市・中学生)

北國新聞「地鳴り」R2.10.16

医療従事者に  
感謝すべき

**北出 莉穂 15歳**  
(かほく市・中学生)

私は総合的な学習の時間  
を通して、今、日本では、  
保育所が医療従事者の子ど  
もの受け入れを拒否するこ  
とで、医療従事者が休職や  
離職せざるを得なくなった  
り、医療従事者の子どもが  
差別やいじめを受けたりす  
ることが問題になっている  
ことを学びました。

そこで実際、同級生10  
6人と当事者にアンケート

をとってみると、医療従事  
者に対して否定的な意見を  
持っている人が多いと分か  
りました。医療従事者の方  
々は、自分がつらい、誰  
にもつらい、ウイルスを  
持ち込まないために感  
染対策を徹底していること  
が分かりました。

私は、医療従事者に対し  
て否定的な意見を持ってい  
る人がいたら、「医療従事  
者の方々は感染対策を徹底  
し、一生懸命働いてくれて  
いるから、感謝すべきで他  
の人と違う対応をするべき  
ではない」と伝えていきたく  
と思います。

10月24日(土) 北國新聞 地鳴り

「誰かのために  
行動」を大切に

**大木 康資 14歳**  
(かほく市・中学生)

僕は前期の間、JRC委  
員会の委員長をしていた。  
JRCとはジュニアレッド  
クロス、つまり青少年赤十  
字のことで、僕の学校では  
主にペットボトルキャッ  
プ、プルタブ、ベルマーク  
集めや地域のボランティア  
などの活動を行っている。  
しかし、僕は委員長にな  
るまでJRCのことをあまり  
りよく知らなかった。委員  
長になってからも、自分た  
ちがやっていることは本  
当に意味があるのだろうか  
と思っていた。

僕の考え方が大きく変わ  
ったのは、自分たちが集め  
たペットボトルキャップが  
約50人分のポリオワクチン  
に変わったということを知  
ったときだ。僕は「自分た  
ちがやったことは無駄では  
なかった。約50人の命を救  
ったんだ」と実感するこ  
とができた。

募金やボランティアとい  
った活動は、結果を実感で  
きることはあまり多くない  
かもしれない。しかし、必  
ず誰かのためにはなってい  
る。自分のためではなく、  
誰かのために行動する。  
この言葉を大切に、これ  
からも募金やボランティア  
活動に参加していきたい。

10月29日(木) 北國新聞 地鳴り